

発行日 令和7年3月13日(木)

始良歴史ボランティア協会広報誌 第50号(特別号)

あいらの歴史と物語

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498

始良市歴史民俗資料館 0995 (65) 1553



@AIRA_NO_REKISHI

【発行責任者】

始良歴史ボランティア協会

会長 宮内 伸一

編集(企画部)

竹之内 茂

始良歴史ボランティア協会

公式Instagram

記念すべき広報誌第50号の発刊を迎えて

始良市教育委員会社会教育課長補佐 深野 信之

始良歴史ボランティア協会員の皆さんには、県内一の指定文化財数を誇る始良市の文化財保護行政を力強く支えていただいています。まず初めに、この場をお借りして深く感謝いたします。

今から19年前、平成18年度に歴史ボランティア養成講座が開講しました。当時の下鶴係長発案の講座で、7月～2月に座学9回+巡見6回+卒業発表、講座料以外に『始良町郷土誌』は必ず購入というハードな内容で、私は受講生が集まるのか正直疑っていました。

しかし、蓋を開ければ、12名の方が熱心に受講・修了し、係長の慧眼と講座を乗り越えた1期生の熱心さに感服したことを覚えています。その後、養成講座は7回を数え、多くの修了生が協会に加入し、積極的に活動していただいています。今後も先人たちの足跡に学び、それぞれが楽しみながら社会に還元する姿勢で活動してもらいたいと心から願っています。



第1号

平成19年(2007)6月14日発行

始良市歴史民俗資料館館長 下鶴 弘

協会広報誌第50号の刊行おめでとうございます。いま手元にある広報誌第

1号を見ますと、初代会長の橋木さんや濱口会員の名前が見えます。当時の

編集者は宝泉孝志さんであり、会員数は11名で発足しています。巻頭に橋木会長のあいさつ文が紹介され、当時の歴史民俗資料館長・塩満郁夫先生のガイド協会設立を喜ぶ文章が添えられています。紙面も内容豊富で、初仕事の5月の白銀坂ウォーク、重富地区史跡紹介、東郷町の兵六踊り、田の神シリーズなどが掲載されています。宝泉編集長の手慣れた構成で4ページが埋められています。

これからもこの広報誌を充実させ、会員相互の研鑽の場として活用発展させてください。

始良歴史ボランティア協会会長 宮内 伸一

平成19年6月14日「あいら歴史物語」として第1号が発行されてから18年を迎えようとしていますが、この度、50号という一つの大きな節目にあたり、特別号を発行することにいたしました。

現在14名の会員がいますが、これまで協会の活動を支えてこられた諸先輩方の歩みを受け継ぎ、さらに研鑽に努めながら活動を充実させ、これからも広報誌に自分たちの歩みを綴っていきたいと思います。

始良市の数多くの文化財を紹介する中で、歴史・文化・風俗などの「始良の歴史を後世につなぐ」という大きな役割を果たせるよう努力してまいりますので、今後とも、始良歴史ボランティア協会を活用していただき、私たちをご支援して下さるようお願いいたします。

始良歴史ボランティア協会の歴史

協会発足当時の思い出

初代会長 橋本 雅晴

約10ヶ月間の養成講座を経て、平成19年4月、会員11名で発足しました。規約制定や役員選考時、素人で最年少の私が会長に推薦され7年間務めました。

当時県内には類似のガイド団体は皆無で手探り状態での出発、初仕事は文化庁が主唱する「歩き・み・ふれる歴史の道・白銀坂」でした。当日は薩摩川内市東郷町の兵六踊り保存会による白銀坂狐退治の野外劇も披露され拍手喝采を浴び、ガイドも上々との評価に興奮を覚えました。11月には県内初の古代官道跡・城ヶ崎遺跡発掘調査説明会の交通整理、翌日には協会初企画「帖佐鍋倉史跡めぐり」で全員がデビューを果たし自信をつけました。翌年には大河ドラマ「篤姫」旋風が吹き、重富島津家が全国放映されると追い風となって来訪者も増え、ガイド活動も軌道に乗ってきました。

しかし順風ばかりではなく、特に広報誌のありかたについては協会存亡の危機に直面しました。高度化を追求する意見と失敗権を認め低空飛行からとの意見の衝突で、編集長の退会申し出に発展、辞められずには組織崩壊すると説得して回り納得してもらいました。

今回創刊50号を迎えることができ感慨ひとしおです。「創業と守成いずれが難しや」の言葉の通り、発足時は困難の連続でも創る喜びで乗り越えられましたが、組織の維持継続は難しいものです。これまでの会員の努力と歴史民俗資料館や文化財系の支援に心から感謝しています。

協会のこれまでの歩み

2代会長 竹之下 洲一



平成19年4月協会が発足して今年3月で18年になります。文化財系や歴史民俗資料館のご指導を仰ぎ、養成講座も数回実施され、会員は11~17名で推移してきました。

発足以来例年の行事として、「歩き・み・ふれる歴史の道」や11月のイベント・公民館講座や各方面から依頼のある史跡めぐりガイド、また小中学生の郷土史学習のお手伝いなど実施し、さらにそのための事前学習や近隣地域の史跡等の研修視察にも積極的に取り組んできました。

また、『始良市文化財ガイドブック』3分冊の原稿作成に会員全員で分担して当たりました。

さらに令和2年からは、始良市内207件の指定・登録文化財の内、約80ヶ所の史跡点検や除草等を年2回実施しています。このような諸活動に対し、令和3年には始良市生涯学習活動功労賞を受賞するとともに、始良伊佐地区生涯学習大会では、私たちの活動を紹介する機会にも恵まれました。

今後とも諸活動を通して会員相互の親睦や交流を図り、充実した日々を送っていききたいものです。



始良市文化財ガイドブック

各部の活動紹介

【研修部】

部長：迫村 あけみ

始良歴史ボランティア協会のメンバーの仕事のメインは、始良市の史跡をガイドすることにあります。ガイドを希望される方々に正確な情報を提供し、歴史を楽しく身近に感じていただくために、日頃の学習は欠かせません。

始良市にある史跡について、より理解を深めその史跡が持つ周辺の背景などを知るために、私たちは年1回始良市と関連を持つ地域へ遠征します。研修部では年度の初めから、場所の選定や2～3度の下見、ルート組み立て、説明担当決定、資料作成など入念な準備をしていきます。時にはその地域の文化財もしくは歴史の専門家に案内をお願いすることもあります。もともと歴史に興味のある面々が集まった会ですので、実施当日は皆わくわくして出発します。

令和6年度は、昨年度に引き続き「渋谷五族」にゆかりのある場所を訪ねて、高城・東郷・宮之城・鶴田を川内川に沿って廻りました。

また12月～1月には、企画部と交互にガイドを担当し、始良市内にある普段のガイドコースからはずれた史跡を訪ねてさらに知識を深め、新たなガイドコースの構成などに役立っています。



さつま町鶴田合戦古戦場跡

【企画部】

部長：竹之内 茂

企画部は7名の会員が所属し、次のような活動を行っています。

【史跡めぐりの開催とガイドの実施】

- ① 春に「歩き・み・ふれる歴史の道」、秋に「秋季史跡めぐり」を開催し、史跡解説のガイドを行います。毎年、事前に募集しますのでご参加ください。
- ② 「史跡めぐりのガイド要請」は、歴史民俗資料館か市教育委員会社会教育課文化財係にご相談ください。経費は資料代1,000円で、ご希望のルートをガイドします。
- ③ 加治木の国登録有形文化財「森山家住宅」の見学は、文化財係にご予約いただくと、主屋（住宅）・作業場・土蔵の内部をガイドします。

【歴史民俗資料館の支援活動】

館の展示については、ご予約いただくと解説します。

また、館は毎年特別展を開催しますが、開催中の土・日・祝日は展示解説を行います。

夏休みの体験学習会（まが玉づくり・帖佐人形づくり等）の支援活動も行っています。



滝観音（龍門滝前）

【文化財の巡回点検】

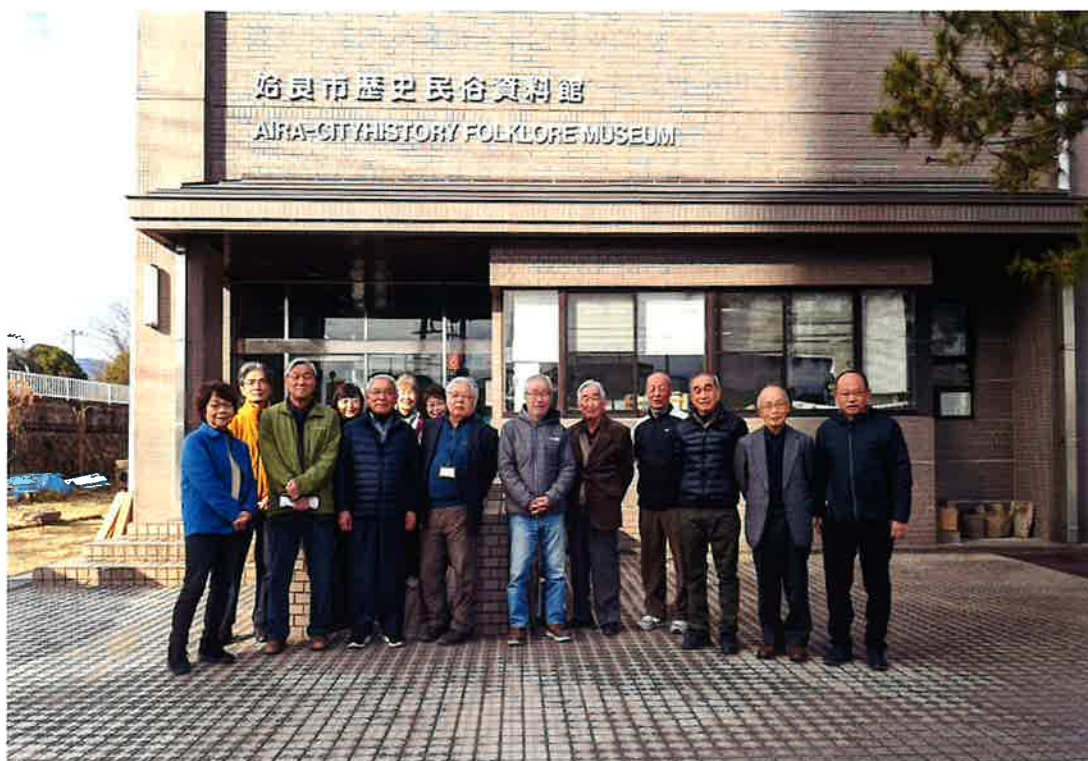
加治木地区51件・始良地区21件・蒲生地区9件、合計81件の文化財について、上半期と下半期の2回巡回して文化財と解説板の状況を点検し、雑草取りや清掃などの保存活動を行っています。点検結果は文化財係に報告し、文化財の良好な維持管理に努めています。

令和6年度(2024年)の主な年間活動

書記 玉利 良一

<p>5月14日 蒲生中学校郷土学習</p>	<p>5月25日 歩き・み・ふれる歴史の道 建昌城探検</p>	<p>5月～7月、10月～12月 史跡巡回(2巡)</p>
<p>授業で習った郷土史をもとに、実際に史跡をめぐり、郷土の成り立ちを案内</p>	<p>市教育委員会主催の史跡めぐりで史跡ガイドを分担</p>	<p>始良市全81ヶ所を巡回し史跡維持のため点検、掃除を実施</p>
		
<p>7月～12月 生涯学習講座 (始良の歴史探訪)</p>	<p>8月3日 ムーミン講座 (勾玉づくり)</p>	<p>10月5日～12月1日 歴史民俗資料館 秋季特別展 「鹿児島製の塩と帖佐松原塩田」</p>
<p>座学で学習した歴史(史跡)を案内(蒲生・始良・加治木地区)</p>	<p>夏休み小学生以下の子どもたちの体験学習をサポート</p>	<p>歴史民俗資料館特別展で、来館者への展示案内</p>
		
<p>10月7日 研修視察 (渋谷五族史跡めぐり北薩)</p>	<p>10月24日 ムーミン講座 (わがまち再発見 漆校区)</p>	<p>11月30日 秋の史跡めぐり (加治木のなぎさを歩く)</p>
<p>研修部が計画し近隣地域の歴史を学び、会員の知識向上を図る</p>	<p>退職校長会主催の市内の「校区まち歩き」で史跡ガイドを実施</p>	<p>企画部が市内史跡めぐりを立案し、参加した市民に史跡ガイドを実施</p>
		

始良歴史ボランティア協会員の思い



<p style="text-align: center;">企画部 梅田 眞次</p> <p>歴史ボランティア養成講座の思い出</p> <p>平成 25 年度の養成講座を下鶴先生から受けました。講座の終了時に 5 分間の発表が義務付けられました。私はかねてから廃仏毀釈<small>はいぶつきしやく</small>が気になっていましたので、名越 護氏の著作の『鹿児島藩の廃仏毀釈』を読んで発表しました。5 分間でしたが一生懸命でした。今でも案内の難しさをかみしめています。</p>	<p style="text-align: center;">企画部 黒木 竹幸</p> <p>6 年前、私は転勤で始良市に引っ越してきました。新しい町のことをもっと知りたいと思い、4 年前に始良歴史ボランティア協会に入会しました。始良市には歴史深く興味深い史跡や文化財がたくさんあり、協会の活動を通じて文献で学んだ知識を、現地で実際に見ることで更に深めることができました。また、多くの人たちとの出会いがあり、新しい仲間と一緒に歴史や文化について語り合いながら楽しんでいます。</p>
<p style="text-align: center;">企画部 恒吉 一洋</p> <p>史跡や歴史にそれほど興味・関心がなかった私が当協会に入会したきっかけは、私が旧吉田町教育委員会に期限付で在職中、吉田町側の白銀坂ルート確認作業の時に、下鶴 弘氏（現歴史民俗資料館長）のご指導を受ける機会にめぐり合わせたことでした。発掘作業中の会話の合間に、史跡めぐりの楽しみや保存の大切さなどをお聞きするうちに、だんだん興味・関心がわいてきて入会しました。</p>	<p style="text-align: center;">企画部 中村 美千代</p> <p style="text-align: center;">知るたのしみ</p> <p>加治木<small>しょうおうじ</small>の性應寺に与謝野鉄幹・晶子夫妻の歌碑があります。昭和 4 年夏に詠まれた歌で、鉄幹は子どもの頃、加治木に住んでいました。その由来を調べていく中で、「♪妻をめとらば才たけて〜♪」の歌詞が、鉄幹の『人を恋ふる歌』の一節と知りました。自宅で父が酒宴に興じてよく歌っていた歌です。温故知新<small>おんこちしん</small>、知る喜びに心はずませて史跡めぐりを楽しみたいです。</p>

<p style="text-align: center;">企画部 吉田 茂子</p> <p>生涯学習講座で始良市の歴史を知りました。研修を重ねていくうちに、もっと知りたい意欲がふくらみ一人野に山に歩き回ったものでした。やがてこのおもしろさを伝えていきたい気持ちに変わっていきます。教科書を読むのではなく「自分の言葉で語りなさい」と教えられ、今日まで“読む、歩く、見る、語る”を実践してきました。楽しくわかりやすく伝えていけるよう努力していきたいと考えています。</p>	<p style="text-align: center;">研修部 濱口 純則</p> <p>ボランティア協会発足以来、初期メンバーとして活動してまいりました。多くの場所を訪れ、探求心から歴史を深掘りし、メンバーとの意見交換を通じて史跡に関する理解を深めることができました。始良市をはじめ、鹿児島県内にはまだ多くの奥深い歴史的な場所が存在します。今後も積極的にメンバーと共にこうした場所を巡り、知識を深めていきたいと考えています。</p>
<p style="text-align: center;">研修部 西 慎一郎</p> <p>始良歴史ボランティア協会に入会して2年目になります。歴史が好きで始良の歴史を学びたい一心で入会しましたが、ガイドの難しさに苦戦する日々です。</p> <p>始良市の史跡の素晴らしさを多くの方々に知ってもらうために、今後とも始良の歴史を習熟するとともに、ガイドスキルのアップに努めていきたいと思ひます。</p>	<p style="text-align: center;">研修部 前田 聡子</p> <p>名が残る人、そして残らない人々が歴史を紡いでくれています。その折り重なった思いを後世につないでいく役目の一端を担っているのが、始良歴史ボランティア協会ではないでしょうか。できる限り正確に、少しでも分かりやすく、と日々研鑽を重ねる協会員は頼もしく、驚嘆するばかりです。</p> <p>Instagramで活動を発信しています。ぜひご覧くださいね。</p>

本年度後半の活動報告

ムーミン講座 わがまち再発見 漆校区

恒吉 一洋

令和6年10月16日に、始良市内の児童24名と保護者の方々を対象に、1・2年のグループ（史跡6箇所）と3～6年のグループ（同10箇所）に分け、漆地区内の史跡ガイドを実施しました。漆は温暖な気候で、周囲が山に囲まれていて農業に適した所です。そのため大昔から人々が住んでいました。多くの史跡がそれを物語っています。



漆の田の神

今回は、竹牟礼遺跡から出た「槍先形尖頭器」(縄文時代初めのもの)の实物や「一字一石 経塚」から出た中国の古銭の实物も見学できました。

「漆の田の神」は、田の神舞型の石像としては県内で一番古いものです。漆小学校では、各家庭にある持ち回りの「田の神」を並べて「田の神さあ駅伝」を実施しているそうです。

そのほか、予定されていた遺跡を見学しましたが、みな熱心に見聞きし、メモを取っていました。楽しい史跡見学ができたことと思います。

鹿児島県OB会 始良伊佐支部
加治木島津家屋形周辺の史跡めぐり

黒木 竹幸



加治木郷土館

10月30日に12名が参加して加治木屋形周辺の史跡めぐりを行いました。

島津義弘が慶長12年(1607)に築城した加治木屋形跡は柁城小学校と加治木高校の周辺一帯に位置します。加治木の町は義弘が行った町割り
で基礎が作られたとされ、屋形の南堀に架設した欄干橋や、木崎原の戦いの軍功で義弘から
拝領した曾木家の門などの面影がたくさん残っています。

征韓論に破れ帰郷した西郷隆盛は、明治8年(1875)に柁城小学校敷地に私学校の加治木分校を設立しました。郷土館にはその記念に贈られた「敬天愛人」の縦書きの墨書が展示されています。西南戦争が勃発すると、明治10年8月から1年間、加治木島津家の御対面所(現柁城小学校プール付近)に仮県庁が置かれ、それを示す石碑が残っています。

また、日系アメリカ人の伊丹明のレリーフ像も見学しました。明は幼少期を加治木で過ごしましたが、太平洋戦争中にアメリカ陸軍情報部に勤務し、暗号解読や極東国際軍事裁判での通訳に従事しました。このレリーフは、日本とアメリカ、二つの祖国の狭間で苦悩し短い生涯を終えた明の思いを残そうと設置されたものです。参加者は加治木の深い歴史を知り、新たな発見を楽しんでいました。

鹿児島市観光ボランティアガイド
岩劔城跡登山

西 慎一郎



岩劔城跡と岩劔神社

令和6年11月27日(水)に鹿児島市観光ボランティアガイド7名を岩劔城跡に案内しました。

岩劔城は享禄2年(1529)頃に築城された蒲生氏の本城・蒲生城の支城で、険しい岩山の頂上に築かれています。天文23年(1554)の島津氏と蒲生・祁答院氏との戦いでは、この城をめぐる攻防が繰り広げられ、島津氏が勝利しました。

まず麓にある岩劔神社で登山の安全を祈願して登頂を始めました。

本丸跡では、細長い尾根を区切った空堀や土塁などを見ていただき、岩劔城の戦いについて説明しました。

また、山頂からは、戦国時代の山城である加治木城や平山城などを見ていただくとともに、始良市街地を一望していただきました。皆さん険しい山道に苦戦されたようですが、無事に麓に帰り着くことができました。岩劔城の堅固さを体感していただいたのではないかと感じました。

歴史民俗資料館秋季特別展 「鹿児島製の塩と帖佐松原塩田」

歴史民俗資料館館長 下鶴 弘



歴史民俗資料館では令和6年10月5日から12月1日まで秋季特別展を開催しました。

明治5年(1872)に始まる帖佐塩田は、大正3年の桜島大噴火で塩田が被害を受け、大正13年(1924)から本格的に塩田が稼働しました。今回の特別展では所蔵品を中心に総点数50点を展示し、帖佐松原塩田の歴史と鹿児島の製塩について紹介しました。

会期は49日間で、801人の入館者がありました。今回は展示図録も作成し、見学者へ販売して好評を博しました。また、展示解説会を2回実施しました。

展示構成のタイトルは以下のとおりです。

- 製塩の歴史 ○江戸時代の塩田 ○鹿児島の塩田 ○加治木の塩田
- 重富・脇元の塩田 ○帖佐松原塩田の歴史 ○海外の製塩・岩塩

編集後記

今回は、第50号記念特集号として、ページ数を増やして編集しました。

これまで、始良市内の文化財や、協会の活動を紹介してまいりましたが、今後も、より分かりやすく、興味を持てる内容になるよう努めてまいります。皆様方のご活用をよろしくお願いいたします。

なお、今までの「あいらの歴史と物語」のバックナンバーは、始良市のホームページからご覧いただけます。

始良市ホームページ → サイト内検索(デジタルミュージアム) →
文化財をクリック → 始良市デジタルミュージアムを開く →
普及活動を開く → ボランティア活動